

進化人類学分科会シンポジウムS6 形態と発生

オーガナイザー：森本 直記

10月10日（13：00～15：00）A会場

個体発生と系統発生とのつながりを解明する研究は、様々な生物において、また様々なレベルで進められ、Evo-Devo (Evolutionary Developmental Biology)として広く知られるところである。進化を発生から理解しようとする試みの重要性は、人類学の分野においてもかわらない。古人類学においては多くの場合、化石の形態がほとんど唯一の直接的な手がかりであることから、比較形態学的に発生を理解することが重要である。本シンポジウムでは、歯と長骨の発生研究について報告してもらい、それらの知見をふまえて、「比較形態発生」の今後の発展について議論したい。

講演

S6-1 現生トガリネズミ科の臼歯歯冠の発生と中生代哺乳類のトリボスフェニック型臼歯の進化の関係（歯の個体発生と系統発生）（山中 淳之）

Developmental process of modern shrew's molar replays evolution of the tribosphenic molar in Mesozoic mammals (Yamanaka, Atsushi)

S6-2 臼歯の形態と発生（森田 航）

Morphology and development of molar (Morita, Wataru)

S6-3 マクロ形態の発生：ヒトと大型類人猿の長骨形態とロコモーション（森本 直記）

Locomotor behaviors and developmental patterns of long bones in humans and great apes (Morimoto, Naoki)